

～より良い教育環境の実現に向けて～

坂下中学校区における 学校統合に向けた基本方針

令和8年6月

春日井市教育委員会

目次

I	基本方針の策定にあたって	1
1	策定の趣旨	1
2	小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方	1
3	坂下中学校区でのこれまでの取組	3
II	児童生徒数推計	4
III	アンケート結果	6
IV	意見交換会でのご質問・ご意見	10
V	基本方針	12
VI	今後の進め方	14
	参考資料	15
1	意見交換会質疑応答一覧	15
2	坂下中学校区図	29

1 本方針において、語句は次のとおり使用します。

① 年号について、「R」は令和をいいます。

② 「児童」は小学生、「生徒」は中学生をいいます。「児童生徒」は、小学生と中学生をあわせたときをいいます。

③ 本編(目次 I から VI)において、「保護者」は、児童生徒及び未就学児の保護者をいいます。

2 本方針において、児童数及び生徒数は、令和7年5月1日時点のデータをもとに推計しています。

3 児童生徒数推計では、特別支援学級の児童生徒数及び学級数は除きます。

I 基本方針の策定にあたって

1 策定の趣旨

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数は、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

こうした状況から、本市では、将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、令和 7 年 2 月に、「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定しました。その後、最優先に検討していくこととした、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の 5 つの中学校区にある学校において、保護者や子どもたち、地域の方にアンケートを実施するとともに意見交換会を開催し、学校の適正規模や適正配置について検討を進めているところです。

このたび、坂下中学校区の小中学校への取組を具体的に進めるため、「坂下中学校区における学校統合に向けた基本方針」を策定します。

2 小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方

(1) 適正規模の考え方

ア 学校規模の区分

国の基準を参考にしつつ、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けています。

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

① 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

② 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4～ 5	6～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

イ 学級数の基準

学級数については、次の1学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学1年生～中学1年生	35人
中学2年生及び中学3年生	40人

※ 中学2年生は令和8年度以降、中学3年生は令和9年度以降について、1学級あたり35人で推計しています。

<複式学級>

複式学級とは、児童又は生徒数が一定の基準を下回る学校において、複数学年の児童又は生徒を同じ学級として編成する制度のことです。

複式学級となる愛知県の基準（小学校）

1・2年生	2学年の合計が7人以下
3年生以上	各2学年（3・4年生又は5・6年生）の合計が14人以下

ウ 対応の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

(2) 適正配置の考え方

現在の学校の配置を基本としますが、今後の児童生徒数の推計を踏まえ、学校配置の基準を次のように定め、望ましい適正配置を検討します。

ア 学校は、児童生徒の教育環境に可能な限り差が生じないように、適正な規模で地域にバランスよく配置すること。

イ 通学区域は、学校が、地域コミュニティの核であること、また、地域のまちづくりのあり方と密接に結びついていることを踏まえ、地域のまとまりと可能な限り整合していること。

ウ 通学距離については、小学校は1.5キロメートル、中学校は2キロメートルまでを標準とするが、徒歩のほか、自転車やバスでの通学も考慮し、小学校は4キロメートル、中学校は6キロメートルまでを可能とすること。

3 坂下中学校区でのこれまでの取組

令和7年2月に策定した「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」をもとに、保護者、児童生徒及び地域の方にアンケートを実施しました。その後、各小中学校で第1回意見交換会を、中学校区全体で第2回意見交換会を開催し、保護者や地域の方との意見交換を行いました。

令和7年2月

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定

本市の現状や児童生徒数推計などから、小中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方を示しています。

坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の中学校区にある学校を最優先に検討を進めることとしています。

令和7年4月

P T A 役員への説明・意見交換

坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校のP T A役員に対し、「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を説明し、意見交換を行いました。

令和7年5月～7月

アンケート調査

保護者、児童生徒及び地域の方を対象にアンケートを実施しました。アンケートの結果は、学校ごとに集計したほか、中学校区ごとに整理し、公表しました。

令和7年9月～10月

第1回意見交換会

坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校及び神屋小学校で、それぞれ保護者及び地域の方を対象に、坂下中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、意見交換を行いました。

令和7年11月

第2回意見交換会

坂下中学校区全体で保護者及び地域の方を対象に、第1回意見交換会の意見などを踏まえ、坂下中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、意見交換を行いました。

Ⅱ 児童生徒数推計

令和7年度における0歳から5歳までの年齢別人口に基づき、小学校は令和13年度まで、中学校は令和19年度まで推計しています。令和22年度は、「第3期春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和7年策定）」の人口ビジョンから推計しています。

令和22年度では、坂下小学校及び神屋小学校は全学年で学級数が1学級の「過小規模」であること、また、西尾小学校では全学年で複式学級が編成されることが推定されます。

(1) 坂下中学校 ※R12から「やや小規模」で推移

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	127	4	110	4	124	4	132	4
2年	107	3	128	4	110	4	125	4
3年	114	3	107	3	129	4	110	4
合計	348	10	345	11	363	12	367	12

(2) 坂下小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」と推定

学年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	68	2	53	2	47	2	43	2
2年	60	2	68	2	53	2	47	2
3年	69	2	60	2	68	2	53	2
4年	76	3	69	2	60	2	68	2
5年	83	3	76	3	69	2	60	2
6年	66	2	83	3	76	3	69	2
合計	422	14	409	14	373	13	340	12

(3) 西尾小学校 ※R9から一部の学年が、R22では全ての学年が複式学級であると推定

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	3	1	7	1	9	1	7	1
2年	9	1	3	1	7	1	9	1
3年	9	1	9	1	3	1	7	1
4年	13	1	9	1	9		3	
5年	15	1	13	1	9	1	9	1
6年	8	1	15	1	13	1	9	1
合計	57	6	56	6	50	5	44	5

(4) 神屋小学校 ※R10から「過小規模」となると推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	19	1	27	1	29	1	31	1
2年	25	1	19	1	27	1	29	1
3年	23	1	25	1	19	1	27	1
4年	36	2	23	1	25	1	19	1
5年	23	1	36	2	23	1	25	1
6年	29	1	23	1	36	2	23	1
合計	155	7	153	7	159	7	154	6

R11 (適正)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
111	4	101	3	94	3
133	4	111	4	101	3
126	4	134	4	111	4
370	12	346	11	306	10

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
52	2
55	2
77	3
184	7

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
48	2
41	2
43	2
132	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
53	2	31	1	32	1
43	2	53	2	31	1
47	2	43	2	53	2
53	2	47	2	43	2
68	2	53	2	47	2
60	2	68	2	53	2
324	12	295	11	259	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
32	1
28	1
32	1
35	1
32	1
25	1
184	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6	1	5	1	1	1
7	1	6	1	5	
9	1	7	1	6	
7	1	9	1	7	1
3	1	7	1	9	1
9		3		7	1
41	5	37	5	35	4

R22 (過小)	
児童数	学級数
2	1
5	
5	
6	1
6	1
4	
28	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
18	1	19	1	19	1
31	1	18	1	19	1
29	1	31	1	18	1
27	1	29	1	31	1
19	1	27	1	29	1
25	1	19	1	27	1
149	6	143	6	143	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
12	1
12	1
16	1
13	1
18	1
15	1
86	6

Ⅲ アンケート結果

子どもたちにとって魅力ある学校づくりをめざすとともに、学校の適正規模及び適正配置について検討を進めるため、令和7年5月から7月にかけてアンケートを実施しました。

アンケートは、学校に関係する方から広く意見を聴取するため、保護者、小学3年生から中学3年生までの児童生徒及び地域にお住まいの方を対象に実施しました。

- ・ 小学校回答者数・・・1,014人（保護者521人、児童（3～6年生）391人、地域の方102人）
※ 未就学児の保護者の回答は、小学校回答者数の保護者に含む。
- ・ 中学校回答者数・・・ 458人（保護者158人、生徒300人）

保護者アンケート・・・【保護者】 地域アンケート・・・【地域】
 児童アンケート ……【小学生】 生徒アンケート・・・【中学生】

1 学校の適正規模等に取り組むことについて

1学年に2学級以上となるように学校の適正規模及び適正配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約6割、地域の方で約8割、中学校の保護者で約7割となっています。

「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答した方・・・賛成
 「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答した方・・・反対

Q 小中学校ともに1学年に2学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	61.8%	28.8%	9.4%
	【地域】	78.4%	11.8%	9.8%
坂下小	【保護者】	63.6%	30.5%	5.9%
	【地域】	80.4%	10.9%	8.7%
西尾小	【保護者】	42.8%	32.7%	24.5%
	【地域】	50.0%	22.2%	27.8%
神屋小	【保護者】	64.2%	23.8%	12.0%
	【地域】	89.5%	7.9%	2.6%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
坂下中	【保護者】	69.6%	26.0%	4.4%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	90.3%	9.4%	0.3%
	【地域】	98.8%	1.2%	0%
坂下小	【保護者】	87.7%	12.3%	0%
	【地域】	97.3%	2.7%	0%
西尾小	【保護者】	100%	0%	0%
	【地域】	100%	0%	0%
神屋小	【保護者】	93.8%	5.2%	1.0%
	【地域】	100%	0%	0%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
坂下中	【保護者】	90.9%	8.2%	0.9%

2 複数学級を望む声について

1学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **96.4%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **60.7%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **82.6%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **99.3%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **57.6%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **99.0%**

3 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 **43.7%**
- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 **39.4%**

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 **59.3%**
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 **51.0%**

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 **59.8%**
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 **58.8%**

4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係の広がりや、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育を重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **58.0%**
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **54.9%**

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **56.3%**
- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **53.8%**

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 **84.3%**
- ・「学校と地域との連携が図られること」 **38.2%**

5 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **51.8%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **22.7%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **62.2%**
- ・「登下校にかかる時間」 **21.5%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **55.0%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **24.7%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **52.5%**
- ・「登下校にかかる時間」 **24.1%**

※ アンケート結果の詳細については、市ホームページに掲載しています。

IV 意見交換会でのご質問・ご意見

1 第1回意見交換会

保護者や地域の方にアンケート結果を報告するとともに、坂下中学校区の小中学校の適正規模及び適正配置に向けた今後の方向性などについて、各小中学校で意見交換を行いました。

参加者からは、学校を統合する場合のスケジュールや今後の具体的な検討の進め方、通学バスについての質問が多くありました。また、具体的な統合案を示してほしいなどの意見もありました。

学校名 (開催日)	坂下中学校 (10月1日)	坂下小学校 (9月16日)
参加者数	11人	18人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (4) ・スケジュールについて (1) ・通学バスについて (1) ・1学級の人数について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・学校跡地について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・アンケートについて (3) ・少人数学級について (2) ・スケジュールについて (1) ・複数クラスを推奨する理由について (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・他自治体の事例について (1) ・西尾小学校で適正化に対して賛成の割合が低い理由について (1)

学校名 (開催日)	西尾小学校 (9月19日)	神屋小学校 (9月18日)
参加者数	16人	17人
質問・意見 () は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・資料内容について (1) ・複式学級について (1) ・地域の過疎化について (1) ・他自治体の事例について (1) ・スケジュールについて (1) ・先の藤山台地区の統合について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・通学バスについて (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の具体的な検討の進め方について (5) ・スケジュールについて (1) ・通学について (1) ・統合に関することについて (1) ・学童について (1) ・他自治体の事例について (1) ・学校跡地について (1)

2 第2回意見交換会

第1回意見交換会の意見などを踏まえ、坂下中学校区の学校統合に向けた本市の考え方及び今後の進め方を示し、坂下中学校区全体で意見交換を行いました。

なお、第2回意見交換会を開催した令和7年11月1日は、坂下小学校区で行われた大規模な地域の行事と重なったため、同様の内容で11月22日も開催しました。

参加者からは、スケジュールや今後の具体的な検討の進め方、通学バスについての質問が多くありました。また、具体的な統合案を示してほしいとの意見や、子どもたちへの対応、跡地の活用など、統合に関して様々な質問がありました。

開催日	坂下中学校区（11月1日）	坂下中学校区（11月22日）
参加者数	45人	15人
質問・意見 （ ）は件数	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の具体的な検討の進め方について (4) ・統合の具体案を示すことについて (3) ・通学バスについて (2) ・魅力ある学校づくりについて (2) ・本市の他の施策について (2) ・スケジュールについて (2) ・意見交換会について (2) ・新しい学校の場所について (1) ・駐車スペースについて (1) ・児童生徒数が増えることへの対応について (1) ・通学について (1) ・個別支援が必要になるケースへの対応について (1) ・子どものケアについて (1) ・学校跡地について (1) ・学校用品の扱いについて (1) ・情報発信について (1) ・他自治体の事例について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールについて (1) ・通学バスについて (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・統合の具体案を示すことについて (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・11月1日の意見交換会での質問について (1) ・通学について (1) ・意見交換会について (1)

※ 質疑応答の一覧については、15ページ以降の「参考資料」に掲載しています。

V 基本方針

子どもたちにとって『より良い教育環境の実現』を図るため、これまでの取組を踏まえ、坂下中学校区における学校統合に向けた方針を示します。

方針1

坂下中学校区内での統合を検討します。

- (1) 坂下中学校は、現時点では他の中学校との統合はしないものの、今後の生徒数の推移を見守ることとします。
- (2) 小学校は、坂下小学校・西尾小学校・神屋小学校の3校の統合に向けて検討を進めます。

- ① 坂下中学校区は、隣接する中学校区と地形的な隔たりがあることや、春日井市に合併前の旧坂下町地区として地域のつながりがあることから、坂下中学校区内での統合を検討します。
- ② 坂下中学校については、生徒数は減少するものの、学校規模は「やや小規模」で推移すると推定されるため、その推移を見守ることとします。
- ③ 小学校については、令和22年度では、坂下小学校及び神屋小学校は全学年で学級数が1学級の「過小規模」であること、また、西尾小学校では全学年で複式学級が編成されることが推定されるため、3校の統合に向けて検討します。
- ④ 登下校については、バスの利用などの通学手段を検討します。

方針2

新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進めます。

- ① 小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討します。
- ② 学校と地域との連携や協働の取組を取り入れ、地域ならではの創意工夫を活かした魅力ある学校づくりを検討します。
- ③ 地域の方が利用することができるコミュニティスペースの設置など、地域の拠点としての学校づくりを検討します。

方針3

保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、丁寧に検討を進めます。

- ① 保護者や地域の方、学校関係者の意向を尊重しながら、意見交換会などを通じてしっかりと議論を積み重ね、十分な理解や協力を得ながら検討を進めます。
- ② 保護者や地域の方に、検討状況や意見交換の内容などの情報を積極的に発信します。

坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校の児童数推計の合計

学 年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	90	3	87	3	85	3	81	3
2 年	94	3	90	3	87	3	85	3
3 年	101	3	94	3	90	3	87	3
4 年	125	4	101	3	94	3	90	3
5 年	121	4	125	4	101	3	94	3
6 年	103	3	121	4	125	4	101	3
合 計	634	20	618	20	582	19	538	18

学 年	R 11 (適正)		R 12 (適正)		R 13 (適正)		R 22 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	77	3	55	2	52	2	46	2
2 年	81	3	77	3	55	2	45	2
3 年	85	3	81	3	77	3	53	2
4 年	87	3	85	3	81	3	54	2
5 年	90	3	87	3	85	3	56	2
6 年	94	3	90	3	87	3	44	2
合 計	514	18	475	17	437	16	298	12

VI 今後の進め方

今後は、坂下中学校区の保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会」を組織し、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行っていきます。懇談会は公開で行うため、傍聴することができます。また、懇談会での意見交換を踏まえ、坂下中学校区全体の保護者や地域の方を対象に意見交換会を開催します。

その後、学校を統合することとした場合は、統合に向けた計画を策定していきます。計画では、統合のための具体的な方策やスケジュールなどを示します。

令和8年6月

「坂下中学校区における学校統合に向けた基本方針」の策定

令和8年6月～

「坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会」での意見交換

坂下中学校区全体の保護者や地域の方を対象に意見交換会を開催

学校を統合することとした場合

統合に向けた計画の策定

【参考資料】

1 意見交換会質疑応答一覧

(1) 第1回意見交換会

ア 坂下中学校

No.	質問	回答
1	統合に賛成で、できれば自分の地区に学校をつくってほしいと考えている方は多いと思う。3つの小学校を統合して、新しい学校はどこにつくるのか。	坂下中学校区の中には中学校を含めると4つの学校がありますが、新しい学校をつくることになった場合は、基本的には既存の学校の土地を活用することになると考えています。坂下中に小中一貫校を設置することもあると考えています。 どこの土地を活用するかは、それぞれメリット、デメリットがありますので、情報提供をしっかり行い、皆様と議論していきたいと考えています。最終的には市が決定する形になりますが、私たちが気付かないメリット、デメリットなど、様々な意見をいただければと考えています。
2	今後のスケジュールを教えてください。	具体的なスケジュールは決まっていません。仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。また、それぞれ学校の運営の方法には特色があると思いますので、その調整にも時間がかかると想定されます。皆様と協議しながら進めていきたいと考えています。
3	坂下中も他の学校と統合する可能性があるのか。	坂下中学校区も他の中学校区と接してはいますが、隣接する中学校区とは地形的な隔りがあることから、適正規模等の取組は坂下中学校区の中だけで実施したいと考えています。
4	坂下中は残って、小学校3校が統合するイメージか。	坂下中学校の推計は「やや小規模」で推移すると考えられますので、その推移を見守ることとします。
5	小学校3校を見ると、神屋小と西尾小の児童数が少ないと感じる。統合するのであれば、段階的に神屋小と西尾小を統合してから坂下小を統合するのか、それとも一度に3校を統合で考えているのか。	統合する場合は、3校を一度に実施したいと考えています。 以前の藤山台小学校の統合は段階的な統合を行いました。一度に統合してほしかったとの意見があったことや、先に統合した2校と後に統合する学校との調整に苦労したとの話もありました。そのため、一度に実施するのが望ましいと考えています。
6	バスによる通学について、市内でバス通学を実施しているところはあるのか。	市内では、通学にバスを利用している事例はありません。 近隣の市町村では、瀬戸市の学校統合した地区で路線バスを利用した通学を実施しており、小牧市では学校の統合を進めている篠岡地区で、スクールバスの導入を検討していると聞いています。

No.	質 問	回 答
7	<p>1クラスの人数が決まっているので、統合してもクラス数が増えない場合もあるのか。</p>	<p>その場合もあります。現在、1クラスの子どもの数は、小学生と中学1年生は35人学級、中学2年生、3年生は40人学級となっています。現在、国において、1クラスの人数を見直す動きがあるため、その動向を注視しています。また、愛知県では、県議会の代表質問で、中学2年生、3年生の1クラス35人学級について、国より1年前倒しして進めていくと回答しています。</p>
8	<p>今後、検討が進んだ後に、協議会で議論していくと聞いた。中学校は統合する予定はないとのことだが、中学校含めた4校の関係者と検討していくのか。</p>	<p>各学校の意見交換会でいただいた意見を踏まえて、次の段階として、坂下中学校区全体で2回目の意見交換会を開催したいと考えています。その後は、坂下中学校を含めた4校の保護者、地域の代表の方や学校関係者などで構成する組織を立ちあげて検討していきます。</p>
9	<p>小学校の体育館は避難所に指定されているが、統合されるとどうなるのか。学校跡地はどうなるのか。</p> <p>今は保護者が学校に送迎しているケースが多く見られるので、駐車スペースも考えてほしい。</p> <p>また、検討にあたっては、未就学児の親の意見もしっかり聞いてほしい。</p>	<p>子どもたちの教育環境の向上を第一に考えて取り組む必要があると考えており、跡地に関することについては、別で検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>送迎スペースの確保については、バスの導入など通学手段を検討していく中で、保護者や学校の先生にも意見をいただきながら検討していきます。</p> <p>また、未就学児の保護者については、アンケート実施の際に保育園や幼稚園に協力いただき、意見を聞いてきました。今後も、園関係者や未就学児の保護者からも多くの意見を聞いていきたいと考えています。</p>

イ 坂下小学校

No.	質 問	回 答
1	学年に1クラスなど、規模の小さい方が手厚く指導してもらうことができ、授業中も静かに授業を受けることができると思う。なぜ春日井市は複数クラスを推奨するのか。	<p>小規模校の方が、教員が一人ひとりの児童生徒の個別の学習状況や家庭状況を把握しやすい環境にあると承知しています。しかしながら、クラス替えができず人間関係が固定化しやすいことや、体育の球技や音楽の合唱など集団で行う授業に制約が生じるなどの課題があります。また、学年に関わる教員が1人だと児童生徒への関わり方が固定されてしまうことや、教員同士が切磋琢磨する環境が生まれにくいこともあります。</p> <p>これらのことから、本市は1学年に2学級以上を確保したうえで魅力ある学校づくりをめざしていこうと考えています。</p>
2	この先、協議会などを設置して検討する機会はあるのか。我々の意見はどのくらい反映されるのか。	各小中学校の皆様の見聞き、一度フィードバックする機会を設けたいと思っています。今後の具体的な検討に関しては、保護者や地域の代表の方、学校関係者を含んだ協議会のようなものを設置し、検討していきたいと考えています。
3	学年に1クラスの小規模校でもうまくやっている県があると思う。小中学校の適正な規模等に関する他の市の事例はどうなっているのか。	文部科学省が2年に1度実施している「学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査」では、74%の市町村が課題を認識しており、そのうちの83%の市町村が対策の検討に着手しています。また、令和4年度に160校、令和5年度には132校が実際に統合して開校しています。岐阜の山間部の学校では学校が分散しているので統合が難しく、そのような学校は小規模校のメリットを活かし、デメリットを最小化するための教育環境の整備を文部科学省は推奨しています。基本的に小学校は1学年2から3クラスが望ましいと文部科学省が定めているため、本市もその考え方で検討しています。
4	小学校の1クラスあたり35人という基準から人数を減らすことでクラス替えができるようになるのではないのか。	本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員が配置されています。1学級あたりの子どもの数を減らしてクラス数を増やしても教員数が増えないため、市独自で学級数を定めることは難しいと考えています。
5	今後のスケジュールを教えてください。	現状、具体的な日程は決まっていません。今後、保護者や地域の方などの代表者を募り、協議会のようなものを設置した上で、坂下地区をどうするかを具体的に検討していく予定です。また学校を新たにつくったり、改修したりするとなると5年近くかかると想定されます。まずは市と皆様との合意形成を図り、スピード感をもって具体的なスケジュールを決定していきたいと考えています。
6	良い学校づくりのためにも具体的な案を提示してほしい。	今後、皆様と話し合いをしていく中で、魅力ある学校づくりをしていくための提案をさせていただきたいと考えています。皆様と話し合いを深め、地域に人が増えていくような、地域づくりに貢献できる新しい学校づくりをしていきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
7	1学級あたりの人数は国や県が定めていると言っていたが、人数を減らせるよう県に要望したらよいと思う。市から国や県に要望する機会はないのか。	毎年、予算編成の時期などに合わせ、市長が愛知県の教育委員会へ直接出向き、教員の配置などについて県に要望する機会があります。
8	アンケートの内容について、「小中学校の適正な規模」など難しい表現が多くみられた。次回アンケートを実施するときはより具体的にわかりやすくしてほしい。	「小中学校の適正な規模や配置」という表現になってしまったのは「統合」だけでなく「通学区域変更」など、他の手法もあるという意味合いを含んでいたからです。現時点で、次のアンケートを実施することは未定ですが、今後、皆様に意見を聞く際には、誰が聞いても分かりやすい表現を用いることを意識したいと思います。
9	未就学児の保護者など、今後就学し、学校規模の適正化の影響を受けると考えられる世代にはアンケートを実施したのか。	坂下地区とニュータウン地区内の公私立保育園、私立幼稚園、認定こども園に協力をさせていただき、未就学児の保護者の皆様にアンケートの案内をさせていただきました。今回のアンケート結果には、未就学児の保護者からの回答結果も含まれています。
10	我々の意見は反映されるのか。この意見交換会の重要性はどれだけあるのか。重要であるなら地域の方をもっと巻き込んで意見を聞いた方がよいと思う。	全ての要望について実施できるとは約束できませんが、行政の視点と実際に地域に暮らしている方の視点は異なるので、皆様から直接意見をいただける場として大変有意義な場だと考えています。皆様からいただく多くの意見を参考に、多角的な議論に努めていきたいと考えています。
11	西尾小学校では適正化に対して賛成の割合が低い。その理由は。	アンケート結果を見ると、現時点で過小規模の学校は、賛成の割合が低い傾向にありました。ここからは我々の推測になりますが、現状の1クラスに満足していて、無理に複数学級にならなくてもよいという方もいるのではないかと考えています。
12	教員が対象のアンケートは実施したのか。	教員に対するアンケートは実施していませんが、先日、坂下小学校で、教員に説明してほしいとの要望があったので、市と教員との話し合いの場を設けました。今後も要望があれば、教員の意見を聞いていきたいと考えています。
13	意見を出し合って、一緒に考える機会をつくってほしい。	これからも、皆様と市とで協議する場をつくり、何回か開催したいと考えています。協議の中で様々な意見が出てくるとは思いますが、無理だと一蹴するのではなく、少しでも理想に近づけるような検討ができればと考えています。

ウ 西尾小学校

No.	質 問	回 答
1	なぜ配布資料の児童生徒数推計には、特別支援学級の数字が入っていないのか。	文部科学省が定めている基準では、特別支援学級の数は学校の適正な規模等に関する学級数に含まないため、それに準じています。 決して特別支援学級のことを除外して考えているわけではありません。
2	複式学級のメリットとデメリットは何か。	メリットとしては、クラスの人数が少ないので、教員が子ども一人ひとりの状況を把握しやすくなります。 デメリットとしては、1人の教員が2学年分の授業やその準備を行う必要があり、教員への負担が大きくなることがあげられます。子どもたちにとっても、教員が異なる学年の児童に対応した授業も行うことから、授業に制約が生じるなど、きめ細かな授業を受けられない可能性があります。
3	複式学級になった場合、他自治体の子どもと学力の差が出てしまうのではないのか。また、差が出てしまうと考えた保護者が引っ越ししてしまうと、西尾地区の過疎化が進むのではないのか。	学力に差が出るかどうかについて、明確なことは言えません。 西尾地区の人口減少に対して、心配される気持ちも分かります。他自治体の事例ですが、魅力ある学校づくりを進めることで、転入者が増え、地域の活性化が図られた例もあります。西尾地区においても、より良い教育環境の整備に尽力したいと考えています。
4	学校規模の適正化等を進めるにあたって、モデルとしている市はあるのか。また統合で成功している地域はあるのか。	近隣市において、現在、学校再編を進めている小牧市や、令和2年に学校統合した瀬戸市の「にじの丘学園」の例などを参考にしています。「にじの丘学園」のように、魅力ある学校をつくったことにより転入者が増え、地域の活性化につながった事例もあります。
5	統合のスケジュールは決まっているのか。以前、藤山台小学校が統合したときは、どのようなスケジュールであったのか。	現状、具体的なスケジュールは決まっていません。今後、具体的な内容が決まっていけば、それに合わせてスケジュールも決まっていくと思います。 なお、藤山台小学校の3校統合は、約5年の期間をかけて、まず藤山台小学校と藤山台東小学校の2校が統合し、次に西藤山台小学校と統合しました。
6	藤山台小学校の統合を進めた際、通学区域など問題になったことはあるか。	当時は統合を前提で地域説明会などを実施していたため、保護者や地域の方からは反対の意見が多くありました。通学区域については、新しい藤山台小学校までの通学距離が遠いという意見から、不二小学校に通学区域を変更した地域があります。
7	現段階で坂下中学校区での具体的な取組の構想はあるのか。	具体的な計画はまだ決まっていません。まずは、坂下中学校を含めた既存の4つの学校で適正規模の検討を進めていきたいと考えています。通学距離については、文部科学省が基準としている距離があるため、それも参考にし、通学手段を検討する必要があると認識しています。
8	バスの利用を検討する必要があるとのことだが、バスはどのような運用形態になるのか。	現状、具体的に決まっていません。他自治体では、既存のバス路線の利用や、スクールバスの導入の事例などがあります。また、スクールバスについても、市がバスを所有し直営で運用している事例や委託の事例もあるため、今後検討をしていく必要があります。

エ 神屋小学校

No.	質 問	回 答
1	いつ頃から具体的な検討は始まるのか。	現状、具体的な日程は決まっていません。今後の具体的な検討に関しては、保護者や地域の方などから代表者を集め、協議会のようなものを立ち上げて具体的な検討を始めていきたいと考えています。
2	今のところ統合には賛成だが、子どもの通学距離が遠くなるのが心配である。バス利用の対象者の範囲など、具体的なことは決まっているのか。	バス利用対象者の範囲は未定です。バスの運用には、路線バスの利用や通学バスの導入など様々な形態が考えられます。今後、皆様からの意見をお聞きしながら検討していきたいと考えています。
3	統合以外の選択肢はあるのか。	子どもの数が全国的に減少する中、子どもたちには、市内のどの学校にいても平等な教育を受けてもらいたいと考えています。 適正規模の取組を進めるにあたり、規模の小さい学校同士では、通学区域の変更は学校規模の改善にはならないため、現在の学校数を残す選択肢は難しいと考えます。しかしながら、市だけで決定するのではなく、皆様の意見をお聞きしながら一緒に検討していきたいと考えています。
4	統合する場合、今より1学年の人数が増える。その影響で学童に入れるかが心配。受け入れの人数を増やすなどの対応はしてくれるのか。	子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、新しい学校で子どもの家が運営されることが、子どもの移動もなく望ましいと考えています。受け入れの状況については、市の西側の学校では3年生でも入れない場合があるなど、市内でも状況が異なっており、今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたいと考えています。
5	坂下中学校区は広いため、以前の藤山台小の統合とは違うプランが必要と考える。他自治体の統合例など何か参考しているものがあるのか。	瀬戸市の7つの学校を統合した「にじの丘学園」や、小牧市が現在、篠岡地区で進めている学校統合の事例を参考にしています。
6	統廃合ありきで進んでいると思うが、抽象的であると思う。複数案を提示するなど、具体的に示してほしい。	今回の意見交換会は、神屋小学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めることに対してご理解を得たいと考えています。その後、具体的に検討を進めることとなりましたら、市から皆様にいくつかの案を提示するとともに、皆様からも意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えています。
7	統合に向けての内容にしか取れない。なぜ統合とはっきり言えないのか。配布資料を読んでも統合に向けての話にしか取れない。	学校施設は、地域に密着した重要な施設であり、地域のシンボルでもあるため、段階的に議論を進めていくことが必要だと考えています。いくつかの学校を1つの適正な規模の学校にしたいという思いはありますが、一方的に決めることはよくないと考えており、皆様と意見交換を行った上で、今後の方針を決めていきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
8	<p>まだ統合に関して確定はしていかないと思うが、検討を進めていく中で、反対の意見も出ると思う。その際は、改めて統合に対して賛成や反対の検討をしてくれるのか、それとも、最初に統合と決定したらそのまま進めていくのか。検討の結果、最終的に取組を中止することはあるのか。</p>	<p>今後は、保護者や地域の方の代表者などを集めて、協議会のようなものを立ち上げ検討を進めていきたいと考えています。統合ありきではなく、様々な意見をいただきたいと考えています。そのため、今回のアンケート結果だけで、方向性を決定することはありません。</p>
9	<p>代表者を集めて協議会を立ち上げるということは、協議会に参加しないと意見は言えないのか。それともアンケートを取っていただけるのか、代表者を通さないと意見を伝えることはできないのか。</p>	<p>今後のアンケート実施については未定ですが、ご意見につきましては、協議会の代表を通じて言っていただくほかにも、直接市に連絡していただくこともできます。いただいた意見は、協議会で報告させていただき、必要に応じて検討いたします。</p>
10	<p>協議会が設立された場合、協議会の内容について議事録をつくる予定はあるのか。藤山台小学校の統合の際には、どのような形で地域に情報が公開されていたのか。</p>	<p>藤山台小学校の統合の際には、市が「かわら版」という紙の報告書を作成し各世帯に配布することで、協議内容を地域に発信していました。</p> <p>協議会については、現時点ではメンバーなども決まっていますが、設置した場合には、協議内容の議事録を作成します。皆様への周知方法としては、保護者には学校情報配信アプリの Home&School で配信し、未就学児の保護者には、園のシステムツールなどを使って配信することを考えています。地域の方には、区長・町内会長に協力いただき、回覧板などで周知していただくことを考えています。</p>
11	<p>学校は地域のシンボルという話があったが、地域には公民館などの公共施設もある。それらの機能を一体化し複合施設として、学校統合を進める考えはあるか。</p> <p>また、統合した後の跡地利用も考えて統合を検討する必要があると思うが、市役所の他の部署と連携して検討することはできるのか。</p>	<p>公共施設は、同時期に建設されたものが多く、同じように老朽化が進んでいます。今後の施設の維持管理費なども踏まえ、学校を公民館などの機能もあわせ持った複合施設とするのか、必要に応じて検討します。</p> <p>また、統合した後の跡地利用についても含め、検討の際には、他部署と調整しながら検討していきたいと考えています。</p>

(2) 第2回意見交換会

ア 坂下中学校区 (11月1日)

No.	質 問	回 答
1	<p>坂下小学校での意見交換会の質問の中で、小学校3つを統合し、新しい学校を坂下中学校につくると受け取ったが、小学校の校舎を中学校の敷地内に建てるとなると、運動場が半分となり狭くなるが子どもの成長の面などは大丈夫か。</p>	<p>統合する場合、どこの学校を使うかは決まっていません。今の坂下中学校の場所を使い小中一貫校を設置することも考えの一つとしてあることをお示ししています。</p>
2	<p>統合する場合、通学距離が遠くなる子が多くなると思うので、保護者が送迎することが多くなる。なかよし教室の利用など働いている保護者のことを考え、新しい学校をつくるときには駐車場や学校内の道路について検討してほしい。</p>	<p>第1回意見交換会でも、送迎について多くのご意見をいただきました。統合すると通学区域が広がるので、通学バスについて検討する必要があると考えており、あわせて学校内の駐車スペースについても検討していきたいと考えています。</p>
3	<p>基本方針案の検討の部分、通学バスの検討については関心が高い。検討するにあたって、いつまでにどこの事例を参考に決めていくのか。</p>	<p>学校を統合するにあたって、どこの場所に統合した学校を設置するかによって、通学の距離が変わってきます。また、統合した場合、子ども全員がバス通学することは考えていません。ある一定の距離や坂などの地形も考慮し検討したいと考えているため、いつまでにとすることは決定していません。</p> <p>事例については、瀬戸市や小牧市の事例を参考にしており、瀬戸市では既存のバス路線を活用しています。他自治体の情報も皆様に提供していきながら、坂下中学校区の子どもたち、保護者の方たちにとって最善の方法を考えていきます。</p>
4	<p>通学バスについて、通学距離に加えて、下校時間なども考慮しないといけない。学年別の下校時間など様々だと思うので、丁寧に考えてほしい。</p>	<p>学年で下校時間が異なるため、バスの便数などについても皆様と検討していきたいと考えています。</p>
5	<p>統合するにあたって、学童や通級指導教室、特別支援学級を心配している。子どもの数が増えることになるが、先生が子どもたちを適切に把握することができるか。</p> <p>また、統合するとなれば、遠距離になる子どももいることから、ウェブを利用した遠隔授業の方法もあると思うが、どのように考えているか。</p>	<p>学童については、放課後の児童が安全に過ごせる場として、子どもの数は減少傾向でも利用する方が増えています。子どもの家は、新しい学校において運営されることが望ましいと考えているので、子どもの家の担当部署と連携して検討していきたいと考えています。また、通級指導教室、特別支援学級については、統合すると子どもの人数が増え学級数も増えるので、クラス数に応じた教員が配置されます。</p> <p>統合が難しい学校では、ウェブを利用した遠隔授業や学校間の交流が検討されることもありますが、坂下中学校区は学校の統合を考えていることから検討していません。</p>

No.	質 問	回 答
6	どこに学校がつくられるにしても、子どもにも運転者にも安全面に配慮した通学路を設定してほしい。	通学について、保護者はアンケートの結果からも安全性を心配していることがうかがえます。新たな学校の通学路の設定については、子どもたち、運転者の安全に配慮したいと考えています。
7	統合することにより、子どもの数は増えるが、特別支援学級など個別支援が必要になるケースはどうなるのか。	特別支援学級は1学級8人以下で編成され、それに応じた教員が配置されます。本市では、個々の対応が必要になる場合は、市独自で県からの教員の配置とは別に支援員を配置する事業も行っています。支援員の配置の拡充なども、新しい学校づくりの検討の際にご意見やご要望をいただければと考えています。
8	開校まで最短でも5年くらい必要という話で、自分の子どもに影響がある可能性がある。詳細なスケジュールがわからないと不安である。第1回意見交換会から市の具体的な案がない。学校の場所がどこになるかで、住民の意見が変わると思う。具体的な案がないと何を意見したらよいか考えられない。場所やスケジュールを具体的に教えてほしい。	現在は学校統合に向けて意見交換をしている段階であり、具体的な案はありません。まずは基本方針の案を策定し、具体的なことはその後の懇談会で話し合っていきたいと考えています。令和8年度くらいには、ある程度詳細についてお示しできればと考えていますが、統合に向けた課題などによって、スケジュールが変わってくることも考えています。
9	新しい学校の場所や取組の時期など時間のかかる大がかりなことだと思う。検討では、地域性を考える必要がある中で、魅力ある学校づくりをどう考えているか。	統合するにあたり、悲観的に考えるのではなくて、将来の子どもたちのために魅力ある教育について検討し、地域の活性化も期待できる学校づくりを皆様と一緒に検討していきたいと考えています。
10	子どもが複数いて、小学校と保育園や幼稚園に通わせている保護者がいると思う。小学校と同じように保育園などはどう考えているか。	子どもの数が減る中でも、保育園に通わせたいという保護者は多くなっていると認識しています。公立保育園については、入園状況をみながら再編成をしていくことはあり得ますが、坂下地区の保育園がどうなるかは未定であり回答しかねます。
11	統合について決まっていない部分もあると思うが、子どもたちのケアのために、統合前に共同で運動会を実施するなど、統合する場合の子どもたちの負担についても配慮してもらいたい。	学校を統合するにあたり、子どもたちが不安を抱えないようにするため、統合する前に、学校間で子どもたちが交流できる機会を積極的に設けることなどを検討したいと考えています。
12	統合した後の廃校になる学校施設の活用方法を聞きたい。また、当該施設をバスの発着点としたり、学童として使ったりすることができないか。	跡地について、過去に藤山台地区で3校統合した際は、2校の跡地をグループふじとうとノキシタプレイスとして活用しています。教育委員会としては、子どもたちの教育環境の向上を検討し統合を進めていきたいと考えており、跡地については市全体で別に検討していきたいと考えています。 バスの発着点については、子どもたちの体力面の向上も考えて、全く歩かないことは避けたいと思っています。学童については、子どもたちが移動することがないように、新しい学校の中で運用されることが望ましいと考えていますが、いただいた意見も参考に今後検討していきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
13	統合することにより、地域から学校がなくなることになる。跡地については、地域の今後に関わるので、学校がなくなることと同時に考えないと地域が廃れてしまう。西尾小学校のアンケート結果をみると、西尾地区の方々の意見をもっと聞いてほしい。急いで3校を統合することはどうかと思う。	統合することが決定したわけではありません。今後、懇談会の話し合いの中で、統合を進めてほしくないという総意があれば、見送る可能性もあります。西尾小学校区の方に限らず、坂下小学校や神屋小学校の方とも意見交換をしていく中で、皆様と協議させていただければと考えています。
14	統合する場合に体操服や上ぐつなどの学校用品が新しくなるとすると、現在の学校用品が無駄になるかもしれないので、連絡を早くしてほしい。	保護者の方に余分な負担が掛からないようにしたいと考えています。
15	低学年の子どもの気持ちや意見も聞いて、保護者と地域の方と情報共有してはどうか。	アンケートは小学3年生以上の子どもたちにご協力いただきました。今後、直接子どもたちから話を聞く場を設けて、保護者や地域の方と情報共有することについては、必要に応じて開催を検討したいと考えています。
16	今後、懇談会で協議していくとのことだが、市の企画部門の職員を構成員に入れることはできないか。バス路線や市のまちづくりについても考えることになるので、教育委員会だけでなく、市の企画部門の職員も参加してほしい。	跡地の活用やバスの運用、また学校が避難所になっていることなどもあり、今も市の関係部署とは情報共有を行っています。懇談会は地域の方のお話を聞く場ということに重きを置いているので、市の職員を構成員とすることは考えていませんが、その時々議題などにより、必要に応じてオブザーバーとして参加依頼を検討したいと考えています。
17	統合については、子どもの環境が変わることや、先生が目が行き届かなくなるかもしれないなどの保護者にとって心配なことがあると思うが、意見交換会のことを知らない親がいた。今日の資料を学校から保護者に渡してもらおうとよいと思った。	今回の意見交換会については、保護者の方に学校情報配信アプリのHome&Schoolを利用して周知させていただきました。紙の資料を保護者全員に配ることは難しいですが、データとしてHome&Schoolで送付することはできると思うので、今後の情報提供のあり方を検討していきたいと考えています。
18	スケジュールに関して、統合の目標時期を示してもらわないとスムーズに協議が進まないと思う。	市としては、子どもの数が減っていく現状の中、早く解決すべきと考えています。しかし、市が単独で統合を進めることはできないと考えていますので、皆様と意見交換をする中で、可能な限り早く取り組んでいきたいと考えています。
19	西尾小学校の周りは農地が多いが、その農地を宅地に変えることは制限されている。まちづくり全体を考えて、市の横のつながりをしっかりしてほしい。	市街化調整区域など都市計画の分野についても、当該計画を所管する部署との情報の連携を行っていきます。
20	統合の時期が決まらないと、保護者は意見交換会に参加しようと思わない。市としての考えを示した上で、話し合いを進めた方が意見を出しやすいと思う。	市が一方的に決める進め方はよくないと思っているため、皆様と統合するかを含め意見交換をしたいと考えています。今後、懇談会で詳細について協議していきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
21	懇談会は限られた方で構成されるとのことで、懇談会で場所などの詳細を決めることができ、意見交換会では決定できないというのであれば、意見交換会を開催する意味があるのか。	今回の取組については、子どもたちの数が減る中ですぐ取り組む必要があると考えていますが、ハードルが高い問題で皆様と丁寧に議論する必要があります。現在は、皆様からの意見を受け止めて検討する段階だと考えています。また、懇談会は詳細を決定する場ではなく、そこで挙げた意見も参考にしていきたいと考えています。なお、懇談会の構成員でなくとも、傍聴者として参加していただき、書面などで意見を出していただく方法も考えています。また、今後も必要に応じて、意見交換会を開催することも考えています。
22	場所の検討などについては、地域性があるって話がまとまらない可能性もある。学校区単位で話をまとめるのが先だと思うが、その機会を設けることについてはどう考えるか。	意見交換会や懇談会だけでなく、PTA役員や地域の方々との意見交換など、必要に応じてそれぞれの単位でも開催を検討したいと考えています。
23	小中一貫校について、小学校と中学校を同じ敷地につくることは大きな話だと思うので、このメリット、デメリットを検討してもらいたい。	小中一貫校については魅力ある学校づくりの一つの手法だと考えています。メリット、デメリットを検討し、皆様にお示ししながら、協議したいと考えています。
24	検討については、どのようなスケジュールで進められる予定か。パブリックコメントはどのように実施されるのか。	基本方針の案を策定した後に、パブリックコメントを坂下中学校区だけでなく、市全域に対して実施します。パブリックコメントは、市が政策などを決定する際に広く市民に意見を募るもので、インターネットの活用や公共施設での閲覧などで実施します。また、パブリックコメントの回答は公開します。実施は2月から3月を予定しており、その後、基本方針を策定します。基本方針の策定後に懇談会を開催していくことを考えており、懇談会は来年度の開催を予定しています。
25	市の具体案が示されていない。また、この取組について、各自治区の区長さんを集めて意見を聞いていない。意見交換会の周知のチラシについても、周知してほしい旨の依頼があってから、2週間では回覧できない場合もある。意見交換会をやるのであれば、議題を明確にして周知する必要があると思う。開催の仕方を考え直すべきだと思う。	意見交換会の開催や周知の方法については、ご意見を踏まえて進めていきたいと考えます。
26	他自治体の事例があるとのことだが、他自治体の説明会であった意見や事例を説明してもらおうと我々もイメージしやすい。同じ疑問点があると思う。	他自治体の担当者の方とは情報交換しています。そこで得た情報を皆様にも提供させていただき、共有したいと考えています。
27	意見交換会の3回目以降が開催されるのであれば、坂下中学校区的具体案を示した上で意見等をいただく方が議論が前進すると思うしスムーズに検討が進むと思う。	本日の意見交換会では、市として統合に向けて検討するという言葉を初めて使いました。本日いただいたご意見を踏まえて、市の具体的な考えを提示できるように進めていきたいと考えています。

イ 坂下中学校区（11月22日）

No.	質 問	回 答
1	統合には約5年かかるとのことだが、それは現在行われている意見交換会が始まった段階からなのか。それとも具体的な案が決定してからなのか。	仮に統合するとなったとして、既存の学校を使う場合、リニューアル工事をする場合、新しく校舎を建てる場合で期間が変わってきます。その中で大規模なリニューアル工事や新しく校舎を建てる場合、工事のための設計と工事の期間で概ね5年かかると予想しています。そのため、統合していくと決まってから5年かかると考えています。
2	ある福祉サービス事業者のバス送迎が運転手不足により中止すると連絡があった。このようなバスの運転手不足の中、通学手段としてバスを出すことを確約できるのか。	坂下中学校区は広いので、仮に3校統合するとなった場合、通学バスなどが必要になると考えています。運転手の確保については、市としても早めに動く必要があると考えています。現時点で確約は難しいですが、3校統合して、子どもたちが通学できないということがないように検討を進めていきます。
3	学校の統合を決定することと、地域の問題や通学バスなどの付随する問題を同時に検討していくのか。	子どもたちが利用する通学バスについては、統合と同時に検討する必要があると考えています。地域のまちづくりに関しても、子どもの教育環境を第一に考えていますが、あわせて地域の活性化の一環になればよいと考えています。学校の跡地などの問題に関しては、市と皆様で検討していきますが、跡地の活用方法が決まらないと学校の統合が進まないということは避けたいと考えています。
4	対象となる世代の保護者の方に、なるべく早く統合についてのビジョンを提示してほしい。また、西尾地区では、西尾小学校は指定避難所となっているので、学校がどのような使い方になるのかを早めに地域住民に知らせてほしい。	現時点では、坂下地区の3つの小学校の統合を具体的に検討していきたいということで、意見交換会を開催させていただいていますが、次の段階として、市の案を複数提示していきたいと考えています。また、皆様からもご提案をいただきながら、議論を進めていきたいと考えています。情報提供に関しても、随時お伝えしていきます。
5	私は現在の学校に満足しており、通学距離が遠くなる可能性がある統合案に賛成とは言えない。しかし、仮に自分の子どもが通っている学校で統合するとなった場合、環境は変わらないので賛成と考える。私のように考える保護者は多いと思うので、保護者の方が納得するように、魅力的な教育内容なども示してほしい。	市としても、ただ学校を統合するのではなく、統合にあわせて魅力ある学校づくり、また、まちづくりにつながるような学校づくりをしていきたいと考えています。今後統合していくとなった場合は、小中一貫校やICTを使った特色のある授業などについても議論していきたいと考えています。
6	前回の神屋小学校で開催された坂下中学校区における第2回意見交換会に参加された方は少ないと思うので、そこで出た意見を紹介した方が良く思う。	いくつか抜粋してご紹介します。通学について、「統合する場合、通学距離が遠くなる子が多くなると思うので、保護者が送迎することが多くなる。なかよし教室の利用など働いている保護者のことを考え、新しい学校をつくる際には駐車場や学校内の道路について検討してほしい。」というご意見をいただきました。それに対して「統合するとなると、通学区域が広がるので通学バスについて検討する必要があると考えており、あわせて学校内の駐車スペースについても検討していきたいと考えています。」と回答しています。また、「通学バスについて、通学距離に加えて、下校時間なども考慮しないといけない。学年別の下校時間など

No.	質 問	回 答
		<p>様々だと思うので、丁寧に考えていってほしい。」というご意見をいただきました。それに対して、「バスの便数などについても皆様と検討していきたいと考えています。」と回答しています。</p> <p>次に、「統合するにあたって、学童や通級指導教室、特別支援学級を心配している。子どもの数が増えることになるが、先生が子どもたちを適切に把握することができるか。」というご意見をいただきました。それに対して、「学童については、放課後の児童が安全に過ごせる場として、子どもの数は減少傾向でも利用する方が増えています。子どもの家は、新しい学校において運営されることが望ましいと考えているので、子どもの家の担当部署と連携して検討していきたいと考えています。また、通級指導教室、特別支援学級については、統合すると子どもの人数が増え学級数も増えるので、クラス数に応じた教員が配置されます。その点についてもしっかりと対応していきます。」と回答しています。</p> <p>「統合について決まっていない部分もあると思うが、子どもたちのケアのために、統合前に共同で運動会を実施するなど、統合する場合の子どもたちの負担についても配慮してもらいたい。」というご意見をいただきました。それに対して、「学校を統合するにあたり、子どもたちが不安を抱えないようにするため、統合する前に、学校間で子どもたちが交流できる機会を積極的に設けることなどを検討したいと考えています。」と回答しています。また、「統合した後の廃校になる学校施設の活用方法を聞きたい。また、当該施設をバスの発着点としたり、学童として使ったりすることができないか。」というご意見に対しては、「跡地について、過去に藤山台地区で3校統合した際は、2校の跡地をグループふじとうとノキシタプレイスとして活用しています。教育委員会としては、子どもたちの教育環境の向上を検討し統合を進めていきたいと考えており、跡地については市全体で別に検討していきたいと考えています。バスの発着点については、子どもたちの体力面の向上も考えて、全く歩かないことは避けたいと思っています。学童については、子どもたちが移動することがないように、新しい学校の中で運用されることが望ましいと考えていますが、いただいた意見も参考に今後検討していきたいと考えています。」と回答しています。</p> <p>他に「今後、懇談会で協議していくとのことだが、市の企画部門の職員を構成員に入れることはできないか。バス路線や市のまちづくりについても考えることになるので、教育委員会だけでなく、市の企画部門の職員も参加してほしい。」というご意見をいただきました。それに対して、「跡地の活用やバスの運用、また学校が避難所になっていることなどもあり、今も市の関係部署とは情報共有を行っています。懇談会は地域の方のお話を聞く場ということに重きを置いているので、市の職員を構成員とすることは考えていませんが、</p>

No.	質 問	回 答
		<p>その時々議題などにより、必要に応じてオブザーバーとして参加依頼を検討したいと考えています。」と回答しています。</p> <p>その他にも多くのご意見をいただきました。前回の意見交換会の内容は、市ホームページに掲載していますのでご覧ください。</p>
7	<p>仮に統合したとして、学童やなかよし教室を利用する児童で、行きはバスを利用するが、車を持っていないため、帰りは徒歩でないと学校に迎えに行くことができない保護者もいると思う。そのような保護者のことについても考えてほしい。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。検討させていただきます。</p>
8	<p>意見交換会に外国籍の子の保護者の参加が見られなかった。学校には外国籍の子どもも多くいるので、意見を取り入れた方が良いと思う。</p> <p>また、意見交換会はあと何回開催されるのか聞きたい。</p>	<p>アンケートを実施した際に、全ての保護者の方にチラシや学校情報配信アプリのHome&Schoolにてご案内させていただきました。その中で、神屋小学校から外国籍の保護者の方が難しい文章だと分からない可能性があるというご指摘をいただいたので、分かりやすい文章でチラシを作成しお渡ししました。回答がどのくらい反映されているかは把握できていませんが、今後も多くの方からの意見を聞けるように取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>意見交換会につきまして、2回目の意見交換会を終えた後には、市で坂下中学校区の基本方針案を作成したいと考えています。基本方針案には、坂下地区だけではなく全市的に皆様から広く意見をいただき、回答を公表するというパブリックコメントを実施します。その後は、保護者や地域の代表の方を集めた懇談会を開催させていただこうと考えています。また、必要に応じて意見交換会も開催していきたいと思っています。</p>

2 坂下中学校区図

